

### 第13回 トップの塗りについて その2

前回に引き続きトップの塗りについて、解説していきたい。具体的には、1. 色の幅とトップを見る目の錯覚について、2. トップを塗る技術について、解説していく。

#### 1. 色の幅とトップを見る目の錯覚について その2

前号において、テーパー付きトップを全て同じ幅で塗った場合について解説した。

今回は、逆にストレートトップをテーパー付きトップの塗り幅で塗るとどうなるかを検証してみたい。



画像：カラーでみると、先端が太くなる逆テーパートップのように見える。

外径1.4mmのテーパーがないトップに、配色や塗り幅を尽心作の標準のトップの塗りで仕上げたものである。前号と今回からわかることは、トップのテーパーを考慮して、塗り幅を変えていくことが必要であるということだ。

また、別の話題になるが、トップの最先端の幅が広いトップは、手元やショーケースで見ると、いわゆる見た目が良いように見える。ところが、実際に使用してみると、特にセット釣りにおいては、トップ先端まで、じっかりなじませると2節目がなかなか出てこず、かえってみにくいトップになってしまう。トップの塗り幅、前号で解説した黒帯の幅は、トップの見やすさに大きく影響する。

## 2. 個人毎のトップの見え方の違い

私の友人に色弱と自称する方が居り、彼のウキは、グリーンは濃い目、赤はピンクに変更して欲しいという要望がある。

このように、トップの色の見やすさは、個人毎に異なると考えている。

自作のウキや代理製作（オーダーメイド）のメリットは、個人毎に異なるトップの見やすさを追求できることにある。

## 3. トップの塗装について

トップの塗装については、ウキ作者毎の様々な技法が存在する。

また、トップの見やすさは、上述したように、①黒帯部分の幅、②全体が目盛りの幅、③色のコントラスト、④黒帯部分のつや消し、で決まるのではないかと考えている。

トップの塗装はウキの立ち上がりにも影響することから、薄く軽く塗るのがポイントである。

塗料の発色と塗料を薄く軽く塗ることは相反する問題であり、どうすれば薄く軽く塗ってもきれいに発色するかを考えなくてはならない。

P C ムク、P C パイプ（リコーハイテクトップ等）、グラスソリッドは、下地に白の下塗りをするか、蛍光塗料の黄緑を塗るかしない限り、きれいな発色は得られない。

私の場合は、下地に白を下塗りする技法を採用している。これは、異なる素材（PC、グラス）を使用することから、白を下塗りするほうが、蛍光塗料の発色の均一性が得られるように思っている。また、筆で白を下塗りするよりも、エアブラシで吹き付けるほうが、薄くかつ均一に塗ることができる。ただし、素材の違いから、エアブラシでの吹きつけ量は、P C とグラスで変えている。

白を吹きすぎると、下地の白が強すぎて、蛍光塗料のオレンジ色が発色しない。

黒帯については、様々な塗料を試したが、現在はラッカー系の Mr.カラーの艶消し黒が、艶消し度合い、塗料の食いつきが一番いいように感じている。

次回は、ウキのボディ、トップ、足のバランスについて、解説していきたい。